



SAITAMA CHORAL NEWS パウゼ

第 5 9 号

2023 年 10 月 31 日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13

(朝日新聞さいたま総局内)

TEL 048-824-8161

FAX 048-831-5310

<http://saiclnet/>

埼玉県合唱連盟新体制!!

埼玉県合唱連盟理事長 小野瀬 照夫

合唱を愛するみなさま！ こんにちは！ お元気で楽しく歌っていますかー？

私たちは令和5年度の埼玉県合唱連盟の理事です。ジェネレーションは幅広く、ベテランの60歳代からフレッシュな20歳代まで三世代に渡るひとつのファミリーのような27人の顔ぶれです。

この3年間はコロナ禍中での事業の運営についていろいろと話し合い、「どうやったら開催し、運営できるか？」と、その時々のできることを模索しながら進んできました。今年度はすでに半期が過ぎ、コロナ禍もまだ終わってはいませんが、このメンバーでワークショップ・合唱祭・コンクール・男声コーラスフェスティバルを企画・運営してきました。これから控えているシニアコーラス大会・SVEC(埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト)・おかあさんコーラス大会に向かっても引き続き全力で取り組んで参ります！

埼玉県連は相変わらず財政的に厳しい状況ですが、コロナ禍前からのスローガンである

M=モチベーションアップ！

A=アカデミックに！

C=クリエイティブに！に加え「遊び心(^^♪」を持ちつつ、更に「そこに愛はあるんか？」と自問自答しながら、愛情たっぷりな事業運営をめざします！

これからもどうぞよろしくお願いいいたします。

理事会後 新理事とともに、はい！ポーズ !!



ご退任された理事の皆様

小林とせ子 副理事長（在任7期14年）

松川 大 常務理事（在任2期4年）

浅子 元 理 事（在任5期10年）

木下八重香 理 事（在任4期8年）

鈴木 弘美 理 事（在任4期8年）

三森 敏 理 事（在任3期6年）

津島登志子 理 事（在任2期4年）

長きに渡り連盟の運営を支えていただきありがとうございました。

SAITAMAコーラスワークショップ2023 Report

5月14日（日）@星野記念講堂ハーモニーホール（星野高校内）

7月9日（日）@さいたま市文化センター大ホール

今年度の SAITAMA コーラスワークショップは「『N コン』課題曲講習会」を5月 14 日に、「全日本合唱コンクール課題曲講習会」を7月 9 日に開催しました。前年度まで同日開催していた会を別日開催にした理由は以下の通りです。

昨年の参加団体の皆さまから「『N コン』課題曲講習会を、未だ練習を始めて間もない時期に実施してほしい」という要望があったからです。この楽曲はどのようなアプローチが可能なのか？詩と音楽の結びつきは？等、練習の初期段階だからこそその学びを得たいという願いに応えるかたちで 5 月中旬に実施いたしました。

『N コン』講習会は星野高校の学内ホールでの開催。コロナ禍により厳しい活動状況が続く中学合唱界ではありますが、200 名近い中学生が集い、印東理事と幡羅中学校の皆さんに引き受けていただいたモデル合唱の素晴らしさも相まって豊かな学びの会となりました。講習の最後に舞台の受講生と客席の聴講生が一緒に「Chessboard」を福

永先生の指揮で合唱。会場は感動に包まれました。笑顔で会場を後にする皆さんを見送ったとき、コロナ禍で傷ついた合唱界の復活の兆しが見えたように思います。



7月の講習会は昨年に比べ聴講者が減少したものの、受講団体の質の高さと清水・山脇両先生の卓越した御指導により昨年同様極めて充実した講習となりました。なかでも浦和一女さん、松山女子さん、La Mer さんの受講曲「街路灯」を両先生が違ったアプローチで導かれ、それぞれに三善晃作品の魅力が引き出されるのを目の当たりにしたとき、指導法の多様さ、そして作品の奥深さを実感することができました。

（常務理事 佐々木憲二）



女声合唱の祭典 第46回全日本おかあさんコーラス全国大会



@アクリエひめじ大ホール（姫路市文化コンベンションセンター）

春日部女声コーラス清秀“ひまわり賞”おめでとうございます！

こんにちは。春日部女声コーラス清秀です。私たちは、昨年11月に[40周年記念コンサート]を開催したところです。そして今年8月…、[おかあさんコーラス全国大会in姫路]にて、結成以来初出場という機会を得ました。初参加ということもあり、緊張と高揚感のなかでの演奏でしたが、何と！“ひまわり賞”を戴くことができました。団員一同、感謝と感激の思いに幸せいっぱいの気持ちです。この思いを大切にしながら、これからも仲間と一緒にコーラスを楽しんでいきたいと思います。ありがとうございました。

(団代表 斎藤洋子)



(写真提供 朝日新聞さいたま総局)

第66回埼玉県合唱コンクール～コロナ禍を超えて～

2023年8月19日（土）高等学校部門（A・Bグループ）

20日（日）小学校部門 中学校部門（混声合唱の部・同声合唱の部）

9月3日（日）彩の国部門

大学職場一般部門（同声合唱の部・混声合唱の部・室内合唱の部・大学ユースの部）

@さいたま市文化センター大ホール

「マスク着用義務なし」「ステージ上人数制限なし、立ち位置指定なし」「体調管理シート提出なし」——。5/8 をもって新型コロナウイルスに対する国の指針が変わり、待ち望んでいた本来の合唱の形が戻ってきました。第66回埼玉県合唱コンクールの開催は、できる限りコロナ前の実施方法を目指すという方針で進め、かつ、引き続き感染状況に注視し、もしもの時にはこれまでの感染防止策がすぐにとれるようにも心掛けました。

今年度は8/19（土）が高校部門、8/20（日）が小学校・中学校部門、9/3（日）が大学職場一般部門で、会場はいずれもさいたま市文化センターでした。参加数は高校32団体（棄権1を含む）、小学校2団体、中学混声13団体、中学同声18団体、彩の国15団体（棄権1を含む）、同声7団体（シード1を含む）、混声5団体（シード1を含む）、室内7団体、ユース3団体で、合計102団体となりました。コロナ前の出場数にはまだまだ及びませんが、演奏についてはどの団体も練習の成果を存分に発揮した大変すばらしいものでした。

コロナ前の実施方法に戻すということではもう一つ、表彰式も観覧人数制限なしで行いました。会場全体が緊張する結果発表の瞬間とその後の歓喜の声！多くの人の心が動くのを肌で感じました。そして、結果発表前の高校部門の「歌いまわし」の復活！聞くところによると事前に各校の部長同士で連絡をとり計画的に実行したそうです。その思いと行動力に驚くとともに、次世代の合唱界を担う若者を頼もしく思いました。この暑い夏に合唱への熱い思いをすべてかけて歌った皆さん姿には感動しかありません。コンクール担当として間近で見守ることができたことは本当に喜びでした。次年度のコンクールがはやくも楽しみです。

最後に、お手伝いしてくれた係員の方々へ、皆さんの力があってこそ無事にコンクールを開催できました。本当にありがとうございました！

(常務理事 生倉みゆき)



第66回埼玉県合唱コンクール審査員インタビュー

片山みゆき先生にお話を伺いました



- それでは片山先生、インタビューよろしくお願ひいたします。先生には以前より埼玉県合唱コンクールの審査をお願いしておりますが、コロナ禍がやっと明けつつある状況で、高等学校部門と小学校・中学校部門の審査を行っていただきました。学生の合唱について、どのような印象をお持ちになられたでしょうか？

片山先生（以下敬称略） 以前お伺いしたときに比べ、コロナの影響もあってかやはり人数が減っている合唱団が多くなったなあということと、男声合唱が減ってたりとか色々な変化があったんだなと感じました。ただ、埼玉県の合唱の素晴らしい特徴と思うのですが、「この歌を、この表現を聴いて欲しい！」「自分たちはこんな風に歌いたい！」という思いを先生や生徒さん達がしっかり持ち、前面に出していらっしゃるのは変わらないと感じました。3年間のコロナの影響やブランクにも負けない強さ、そして高度な演奏技術、音楽的に豊かな演奏に多く出会えました。

- 本日（第2日目中学校同声の部閉会式で）の先生の御講評の中でもコロナの影響について触れている場面がございました。コロナ以前との変化、マイナスな面が多いかと思いますが、その点についてはどのようにお感じでしょうか？

片山 私はジュニア合唱団も指導しておりますが、中学・高校生の世代が多く、今日ご出場の皆さんと同じようにコロナの影響を強く受けています。特にマスクをし、大きな声を出さずにじっと縮こまって生活していた時期が長く、また今も気を遣っている子供たちがいっぱいいますが、そうすると身体が著しく成長する時期に身体全体を使うとか、思いっきり息をするとか、口の周りや眼の周りの筋肉をたくさん使って表情豊かに表現するということがうまくできなくなってきたを感じます。それから、人との関わり方というんでしょうかね、それが薄くなってしまったのを感じます。前だったらお互いの身体を触って教えあったり、近くで話したり笑いあったりしてコミュニケーションをとり、共に成長することができましたが、それが難しかった。しかし今回コンクールを拝聴して以前の雰囲気に戻っている学校もいっぱいあり、先生や皆さんのが本当に地道な努力を重ね、毎日毎日の生活の中でもう1回信頼関係を築くことに一生懸命力を入れていらっしゃったのだと思いました。

- 演奏のインパクトの部分では声量に表れるかと思うのですが、声量の方はどうでしょうか？戻ってきてるのでしょうか？

片山 声量だけではもちろんないと思うのですが、声量に限って言えば、やはり身体の使い方がこなれていない人たちが多い学校があるかもしれない。またひとりずつしっかり声を出すことに慣れていないかな？と感じる学校も結構あったように思います。特に人数の少ない団で、以前ならひとりずつがしっかり表現され「小アンサンブル」の良さや楽しさを發揮していらっしゃるところもありましたが、今回は少し内向きの、弱いアンサンブルに感じる演奏がいくつかあったように思います。

— この2日間、高校部門・小学校部門・中学校部門（混声・同声）の演奏を振り返っていただきたいと思いますが、いかがでしょう？

片山 もちろん様々な学校がありますが、特に【高校】上位に入られた学校は流石だと思います。細かい練習をきっちりと重ね、ひとりひとりの声や表現方法もしっかり磨いていらっしゃるし、作品の深い読み取りや解釈もしていらっしゃる。流石の演奏だな！と感動する学校が多かったです。【小学校】の2団体はそれぞれに甲乙付け難い。それぞれに団の良さが出ていました。人数が少ない団体は非常に濃い表現・演奏をされていたし、多い団はそれだけの人が集まって歌うからこそ生まれる大きなエネルギーがステージいっぱいに感じられ素晴らしかった。ともに金賞になりましたが、1位、2位はつけられないと感じました。【中学校混声】は、みなさん難しい曲をよくぞここまでなさったなあ。本当によく勉強されていたと思います。ひとりずつが自分のパートの役割を考え、責任を持ってアンサンブルしていらっしゃるのを感じました。【中学校同声】は作品をしっかり読み込み、歌い込むということを先生と皆さん一生懸命なさっていることを音や音楽に感じました。とても良い演奏が多かったと思いました。

— 審査にあたり、先生がどのような観点で審査をなさっているか、注意深く聞いているところ、こういうところを注目しているということがございましたらお聞かせください。

片山 まず一番大切にしたいと思っていることは「共感・感動」。メンバーたちがその作品、音、詩などに共感しているか、「この曲素敵だね、だから皆に聴いて欲しいんだ」と感動を持って歌っていらっしゃるかどうか。その思いがしっかりとていれば「じゃあ、どういうふうに伝えようか？」「どんな声でどのように歌えばよいのか？」と深まってくるかと思います。そしてそういう演奏を伺い私も感動する。その瞬間を大切にしたいと思っています。

— どうやったら上手にハモれるのか、ハーモニーの構築について日々どういうことに注意して練習していくと良いのでしょうか？

片山 それぞれの作品に相応しい声、相応しい音作りが必要と思うのですが、まずはひとりひとりが無理な力を入れず、身体をうまく使って自然に声を出せるということが大切かと思います。個人（ひとりずつ）が伸び伸びと歌えること、そして耳と心を開いて声を出すと、誰かの声が耳に入ってくる。常に自分だけが頑張るのではなく、いつも自分の周りの空間にあるものを感じる、また会場の中でどのように響くのかを感じながら歌えたら素晴らしいですね。そして美しいハーモニーも生まれそう。

— 最後に埼玉県の合唱の指針になるようなお言葉をいただけましたら、どうぞよろしくお願ひいたします。

片山 今回のコンクールに伺い、出演者の皆さんにお互いの演奏をしっかり聴きあっていらっしゃることにまず感動。そして（高校部門審査結果待ちの時間での）交歓会「歌い回し」の楽しそうな様子を拝見し、本当に羨ましいなあ！と思いました。久しぶりに拝見しましたがホントにあれは凄かった。素晴らしかったです。コンクールで、自分たちの演奏だけでなく、表彰だけでもないこんな素敵な時間や感動の体験の中で「これからも合唱を続けていきたいな」「合唱で得た仲間たちを大切にしていきたいな」と発展してくだされば、そして「コンクールに参加して良かったな」と良き思い出になればいいですね。

— 本日は貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。

合唱祭3日目の6月10日（土）、第3部に「ジュニア集まれ！！」と題して、埼玉県内の8つの児童合唱団が集まりました。会場は子どもたちとご家族の皆さんでいっぱいになり、生き生きとした空気が広がりました。コロナ禍では、感染予防でなかなか合唱をすることさえ神経を遣って行う中、いくつもの児童合唱団が集まることは更に難しいことでした。ところが今年の合唱祭では、それぞれの団が個性あふれる演奏を繰り広げました。「あ～！また元に戻ってきたなあ～」と元気をもらい、子どもたちの一生懸命歌う姿に、一步前へ出る勇気をもらいました。児童合唱団のみなさんもいつもは合うことが難しいお互いの合唱団の演奏にじっくりと耳を傾け、「みんなとても上手だった～」という感想があちらこちらで聞こえてきたのはとても嬉しかったです。一堂に会することはなかなか難しいですが、合唱祭の場でこのようにお互いを聴き合い、良いところを吸収する機会はとても刺激にもなりますし、また今後の活動への弾みにもなりました。これからもたくさんの歌を歌っていきましょう。

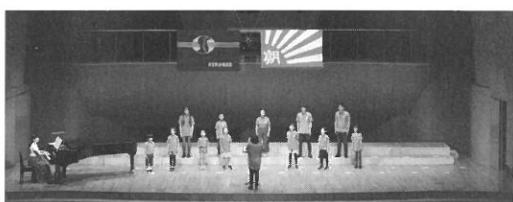
埼玉県合唱連盟理事 戸田市児童合唱団指揮者 Pause 編集委員 金田典子

★♪ ジュニア集まれ！



所沢市少年少女合唱団

さいたまシティジュニアコーラス



戸田市児童合唱団

宮代ジュニアコーラス どんぐり

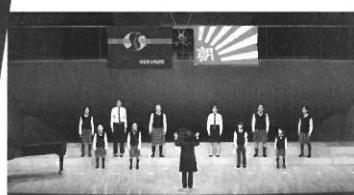


春日部ジュニアコーラス



第68回埼玉県合唱祭第3日目第3部

@川口総合文化センターリリア音楽ホール



日高市少年少女合唱団コ一口・トゥッティ



星の子合唱団



児童合唱団「野うさぎ」



(写真提供 スタッフ・テス株式会社)

ポラスの総合住宅展示場 体感すまいパーク朝霞
GRAND OPEN!
2023.9/2 [SAT]



ポラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL048-989-9119宅建業免許:国土交通大臣(4)第7081号 建設業:国土交通大臣許可(特-5)第14631号 (ポラテック株)

4棟のモデルハウスで注文住宅の魅力を体感!

TEL 048-218-3744

住所 朝霞市幸町3-11-9

◇ 営業時間 / 9:30~18:00

◇ 休業日 / 火・水曜日

◇ 国道254号(川越街道)沿い
朝霞高校向かい



来場予約はこちら



体感
すまいパーク

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

昭和の時代、【ルックルックこんにちは】というTV番組に、「突撃！隣の晩ごはん」というコーナーがあった。晩ごはんの時間帯に予告もなく一般のお家を訪れ夕食の様子を撮影。今も形を変え放送されているらしい。どこのお宅の夕ご飯も興味深い。どこの合唱団のウォームアップ・発声練習も興味深い。ということで、新企画はじめました！



突撃！お宅のウォームアップ教えてください

第1回目は「Blanc Bouleau」（指導者：斎藤暢子先生）の練習にお邪魔しました。



まずは入念に身体をほぐします。団員の皆様それぞれがヨガマットのようなシートを用意されていました。

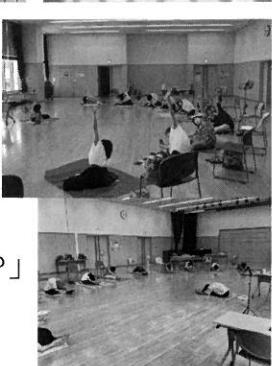


斎藤先生と団員の方がおしゃべりをしながらストレッチ。リラックスした雰囲気で進みます。

「息を吐きながら手のひらを上にして、手で天井を押すつもりでクッと伸ばしま～す。みんなは伸びてるつもりでも真っ直ぐじゃない！」



「お顔は前！胸は腿！あれ？ズルしてる人がいるよ」「今度はオデコつけて。スーツケースに入るつもりで。エスパー伊東という人がいて、あの人がボストンバッグに入って、知らない？〇〇ちゃんとか入れそうじゃない？」



「どこ連れてってくれますか（笑）」

他にも7種類ぐらいのストレッチをこなして、ここまで10分。

「耳の下グリグリ、鼻の下伸ばして、目～うえ、目～うしろに、顔クチャ、上に寄せて、左に寄せて」顔もほぐしていきます。「2拍で吸って8拍で吐きます×3 いちとおにい、10拍吐きます×2 身長伸ばしてあと3センチ 5つ吸って 5つ吐いて×2 自分の肋骨を広く取るイメージで 肩に力入れない お尻に力入れる ハハハの息」声がけしながら連続してプレスの練習「手、前で合わせます Zで行きます Zu---- 択まないで



押す 苦しくなったらもうひと息」続けてZの息で音程を付けて
開始より18分経過。

ハミング（譜例1）「(腕の動きを)リズム感に合わせるだけで
良いのよ！息を止めないで！アップ！アップ！吸ってヨイ

【譜例1】

Zi i i

【譜例2】

【譜例3】

【譜例4】



ショ！」

「nga んが～～ ngo んご～（声に出して）」「n---nga--- n---go---」（譜例1の音型で）

「Zi - i - i」（譜例2）「Z Z Z（みぞおちを押しながら）横隔膜を張つて！」

「Zi - i - ya - a - i」（譜例3）「Zi - ya - i」（譜例4）

「どっちか好きな方の足出して 肩甲骨グーっと上げていきます Zで踏ん張って yaで重心うしろ Zi - ya - i」

「まあめえみいもおまあめえみいもおむー」（譜例5）「会場がビリビリって言うくらい んーまっ！ んー



めっ！ んーみっ！ んーっ も！」



「Zi ii - ya a a a i -（レガート）」「Zi hi hi - ya ha ha ha hi -（スタッカート）」（譜例6）「右の肘 左の膝（くっつける時シットと口で） 臀筋使ってるでしょ これを使って」

「Bri ch Bra-ch Bri-ch Bra-ch Bri --（chはドイツ語のchの発音）」（譜例7）
ここまで38分



最後は移動ドで歌う練習を15分 開始から55分経っていました。

明るく楽しく、でもやってることは結構キツい。みるみる団員の方々の声が響く響く。

斎藤マジックに引き込まれていきました。凄い！

貴重な練習時間にお邪魔いたしました。「Blanc Bouleau」の皆さん、斎藤暢子先生、大変勉強になりました！ありがとうございます。

【譜例5】

まあめえみいもおまあめえみいもおむー

【譜例6】

Zi hi hi - ya ha ha ha hi -

【譜例7】

bi hi ba ha bi hi ba ha bi



斎藤暢子先生プロフィール

斎藤 暢子 Nobuko Saito

国立音楽大学音楽教育学科卒業。声楽を故平田洋子氏に、合唱指揮を松下耕氏に師事。在学中より松下耕氏のもとで合唱アンサンブルについて研究を重ね、アンサンブルの歌い手として国内外の国際コンクールやフェスティバルに参加するなど、精力的に演奏活動を行なう。

現在は指揮者、アンサンブルトレーナー、ボイストレーナーとして多数の合唱団の育成に努めている。2011年よりチャリティープロジェクト「Music Tree」を主宰。

パウゼ

【寄稿文】

重ね合づ心

合唱の理念、新聞作りにも

朝日新聞さいたま総局長

木原 貴之

今年5月に朝日新聞さいたま総局長に赴任しました。それまでは東京本社の社会部で事件や調査報道を担当するデスクとして多忙な日々を過ごしていましたので、今はのびのびと生活させてもらっています。

出身は広島県です。山と田んぼに囲まれたのどかな場所で育ちました。野山を駆けまわって虫を捕まえたり池で釣りをしたり空き地で野球をしたり。学校から帰つたらすぐに外に遊びに行くような少年時代でした。

そんな田舎育ちだったからか、1次産業に興味を持つて大学卒業後は農業関連のメーカーに就職しました。そこでの4年間で感じた農業業界の課題を深掘りできないかと考えて飛び込んだのが今の会社です。

新聞記者は入社して4~5年間を地方拠点で過ごし、そこで基本をたたき込まれます。私が新人のころは新聞社の古い気質が残っていて、先輩の指導はとても厳しかったですし、半年以上まったく休みがあれませんでした。局内は雑然としてタバコの煙が立ちこめ、ソファで寝て

いる人もいます。先輩たちがいつどんな取材をしているのか分かりませんでしたが、夜になると紙面がきちんと出来上がっていくのがとても不思議でした。

最初は原稿を書くのも写真を撮るのも下手だったので苦しい時期が長かったのですが、やがて少しづつ仕事を覚えていくと、自分が見たこと、聞いたことを写真や記事を通じて他人に伝えるという仕事の魅力にはまっています。

初任地の盛岡や、次の新潟・魚沼では米作をテーマにした企画記事をたくさん書くことができました。ただ、その後に赴任した東京本社の社会部では警視庁や国税庁の担当として経済事件を主に担当し、政治とカネの問題をめぐる調査報道にかかるようになります。一度だけ希望がかなつて農林水産省の担当記者になりましたが、それも半年だけ。農業記者の目標は遂げられず、社会の「陰」の部分を追う取材ばかりでした。

そんな歩みで今に至つた私にとって、「合唱」というものはやや縁遠いものでした。でも、いま合唱に触れる機会を得て、新聞作りも合唱から学ぶべきものがあると感じています。

新聞社には代々使われてきた業界用語があり、「飯場(はんば)」という言葉もその一つ。何か大きな事件や災害、企画記事に取り組むとき、記者を集めて取材班が編成されます。毎日のように協同で作業することから、土木作業現場の合宿所を意味する「飯場」と呼ばれるようになりました。取材チームに加わるときに「○○事件の飯場に入る」などと使われます。

飯場に集まる記者の個性は様々で、得意分野も違います。チームとしてまとまるのが難しいこともあります。協調し、補い合いながら取材を進める作業は、違う声と違う性格を持つ一人一人が気持ちをひとつにしてコーラスを作り上げることと似ています。

取材チームを組んでつくる記事もそうですが、新聞の紙面自体、さまざまな記者が与えられた持ち場で責任を持つて取材した結果を一つにまとめたものもあります。仲間たちと気持ちを分かち合い、声を重ねて美しい音色を生み出す——。そんな理念で聴く人に感動を与える合唱をみならい、私たちもチームとしてのメリットを生かして、読む人の心に響く記事を生み出していきたいと思っています。



歌声は消えない

コロナパンデミックから ウイズコロナへ

加藤 良一

新型コロナウイルス感染症は、二〇一九年一二月中国

湖北省武汉市で発生した原因不明の肺炎患者から検出された新種のコロナウイルスに端を発しました。年が明けされ、社会生活がまん延し、世界中を恐怖のどん底に陥れました。日本では二〇年四月七日、緊急事態宣言が出されました。これだけ科学や医学が進歩したと思われる現代において、このようなウイルスパンデミックに翻弄されるとは誰が予測したでしょうか。

情報紙「おんがく広場」創刊

二〇年四月はじめ、音楽家・指揮者の武田雅博先生がフェイスブックに「職業音楽家の願い」と題するメッセージを投稿されました。それは、組織に属さないフリーランスの音楽家、とくに若い音楽家が置かれた苦境を代弁するものでした。

「お願いです。僕のフェイスブックのお友だちの中には、合唱愛好家の方がたくさんいらっしゃいます。きっと、断腸の思いで毎回の練習を中止されていることをお察しします。皆さんの生活の潤いが失われて、合唱したい！と思つていらっしゃるんだでしょう。元気を出してくだ

さいね！」という前置きにつづいて、次のように訴えました。もしあなたの合唱団の指揮者やピアニストがフランスのプロであれば、合唱指導や演奏活動で生活を支えているわけであり、活動ができなければ経済的に困窮してしまいます。フリーランスの音楽家に対する救済制度は期待できない、多少なりとも貯えのあるベテランはともかく、とくに若い指揮者の支援を考えて欲しい、といふものでした。

私はこの投稿に強く心を打たれ、合唱人として手をこまねいてはいられない、合唱界の存続にもかかわる重大問題だと受け止めました。ではどうするか、果たして私に何ができるだろうか。とにかく合唱関係者の声をたくさん聞き、問題や悩みを共有しなければならない。そこでコミュニケーションツールとして『おんがく広場』と名付けた情報紙の発行を決心しました。

課題はどうやってその情報紙を合唱関係者に届けるかでした。まず、紙面は取り扱いやすさからA4サイズとしました。フェイスブックやツイッターのようなSNSはPDFを受け付けてくれません。画像のみです。読者はすれば、PDFのほうがはるかに読みやすく、コピーして仲間に配るにも便利です。そこでひと手間かけてPDFと画像の両方を用意し、いろいろな場面に対応できるようにしました。PDFとは、いわば「電子的な紙」で、印刷したときの状態がパソコン上に表示されるのです。

創刊第一号は二〇年四月一〇日に発行しました。六月までの二か月間はほぼ日刊状態で発行しました。その後、三年三か月で一四〇号を数えるまでになりました。(+)協

力頂いた皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

テーマ別に分け一冊の本として出版。「コロナ禍の合唱

『おんがく広場』せんべつ生まれた』

『おんがく広場』に掲載した内容は多岐にわたります。

それらを大きく「オンラインの可能性を探る」「マスクに振り回された一年間」「見えないウイルスとの闘い」マスクと飛沫の実証実験、「ガイドラインはあくまで参考」「ポストコロナの合唱活動を考えよう」「コロナ禍、演奏会の延期や中止を乗り越え歌う」のテーマに分け、二三年七月までの発行分をまとめてアマゾンオンラインマンドより出版しました。



以下でご覧になります。
[\(https://www.amazon.co.jp/dp/B0B8Z23WRP/\)](https://www.amazon.co.jp/dp/B0B8Z23WRP/)

次に「コロナ禍の合唱『おんがく広場』はこうして生まれた」からいくつかを(+)紹介します。

ガイドラインはあくまで参考

全日本合唱連盟の「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」が出されたのは、緊急事態宣言が出てから二ヶ月以上過ぎた二〇年六月二九日でした。その間、ほとんど活動できなかつた合唱団にとって、何らかの指針、それも科学的根拠に基づいたものが熱望されていました。

ガイドラインはその後、二二一年一月二四日までに四回改訂され、合唱団にとって一つの目安となりました。ガイドラインは「活動停止ではなく、いかに継続させられるか」という視点で作成されました。しかし、そうはいいながらガイドラインは絶対的なものではなく、あくまで目安でありひとつの参考にしかすぎません。最後は合唱団自身が責任をもつて感染防止策を講じ、安全に活動しなければならないのはいうまでもありませんでした。

オンラインにも挑戦

ほとんどの合唱団にとってメンバーが集まつて歌うことができない事態は、過去に経験したことのない危機的なものでした。感染を恐れ合唱団を離れてゆく人びとも現れ、さらには合唱団自体の消滅という悲しい話もありました。それでも、LINEやZOOMなどのオンラインで練習にチャレンジしたり、メンバーの無事を確認したり、自宅でできる練習法を考案したり、悪戦苦闘しながら活動を維持し続けた方々もたくさんいました。オンラインは、実際には不慣れなためと、システム上の限界などで大して役に立ちませんでした。

コロナ禍の爪痕

フリー・ランスの声楽家Yさんは、人々がひとつの大空間に集い、言葉を歌に託す声楽がコロナ禍においては危険な行為であることに大きな衝撃を受けました。二〇年四月には予定もほとんどキャンセルとなり、スケジュール表も白紙の状態が続きました。莫大な経費の支払いにも苦慮し、先行きが見えないなか、心も荒（すさ）んでいました。音楽を愛し音楽に身を託して生活の糧を得てきましたが、それを失うことの辛さに直面したのです。

それでも、「音楽に寄せて（感謝）」と題するメッセージを『おんがく広場』に寄稿し、心のうちを吐露しました。ところが、二ヶ月ほど経った六月、突然音楽家から不動産業への一大転身をフェイスブックに公表したのです。人知れぬ苦悶の末の決断にちがいありません。心情は察するに余りあります。しかしながら、Yさんの身の回りから音楽が消えてしまうわけではないでしょう。新たな人生に果敢に立ち向かうことをお祈りします。

ポストコロナの合唱活動を考えよう

『おんがく広場』は、千葉敏行さん（合唱団パリンクカ指揮者）が二〇年四月二五日フェイスブックに開設されたものです。感染を恐れ合唱団を離れてゆく人びとも現れ、さらには合唱団自体の消滅という悲しい話もありました。それでも、LINEやZOOMなどのオンラインで練習にチャレンジしたり、メンバーの無事を確認したり、自宅でできる練習法を考案したり、悪戦苦闘しながら活動を維持し続けた方々もたくさんいました。オンラインは、実際には不慣れなためと、システム上の限界などで大して役に立ちませんでした。

ポシオンの中の『おんがく広場』コーナーに発行したすべての号の号を掲載しています。

(<http://www.max.hi-home.jp/kato/>)

ウィズコロナのつもりで歌おう

コロナ禍はその後何度も感染の波をくり返しながら、二年九月ようやく緊急事態宣言が解除されました。ワクチンが出揃い、治療薬も不十分ながら出回るようになると感染状況も落ち着き、今はウィズコロナのステージに入っています。各地でイベントが自由に開催できるようになりました。感染防止策も自己判断に委ねられています。感染状況を適切に把握し、正しく恐れる姿勢を忘れずに歌の世界を楽しみましょう。

著者プロフィール

男声合唱プロジェクトYARO（やろう）会主宰／男声合唱団ヴィヴィ・ラ・コンパニー団長／男声合唱団コール・グランツ团长／『おんがく広場』発行クリエイティブ・アーティスト／元埼玉県合唱連盟理事

著書：○「音楽は体力です」（文芸社）／○「復刻版音楽は体力です」、○「コロナ禍乗り越えオペラ上演『歌劇 幕臣・渋沢平九郎』」、○「男声合唱はいま！多田武彦先生追悼集」（以上、アマゾンオンデマンド出版）／

○「コロナ禍の合唱『おんがく広場』はこうして生まれた」（同アマゾン）

